



RIBBON FOR JAPAN

フィルム制作ガイド



参加概要 • ビデオカメラリレー • あなたのフィルムストーリー

Through My Lens™

-レンズの向こうから
津波災害被災者によるフィルムストーリー

あなたのストーリーを世界に伝えよう。

復興が長引けば時間の経過と共に、世界中で日々新しく発生する事故や事件などが注目されるようになり、人々の東北大地震の災害支援への関心は次第に薄れていきます。あなた自身の災害に関する体験（談）をフィルムに残し、メッセージとして世界に発信しませんか？復興に向け生きる日々の中、身近に起こったこと、大きな喜びや些細な幸せ、想像を超えた逆境を体験しているからこそ伝えられることをフィルムに収め、災害支援継続の必要性を世界中の人々に訴えていきましょう。

作品の監督はあなたです。

「Through My Lens™ -レンズの向こうから」プロジェクトでは、**あなた自身**がストーリーの作者・監督となり作品を手がけ、世界へ向けて発信します。未曾有の災害を体験した貴方にしか伝えられないこと、後世に残したい体験談をフィルム作品にしてください。

参加概要

「Through My Lens™ -レンズの向こうから」プロジェクトは、Ribbon for Japan™ (以下RFJ)主催の非営利目的のプロジェクトです。RFJは日本の災害復興支援を目的とし、米国ロサンゼルスで設立された非営利団体です。重要なのは、支援の必要性を世間に認知させること＝**アウェアネス**。被災者自身で制作したフィルムはアウェアネスを浸透させるための強力なメッセージとなり、作品は記録として保存され、貴重な体験談として後世に引き継がれることでしょう。

プロジェクト概要

当団体が提供する専用ビデオカメラを被災地にてリレー形式で一人からまた一人へと繋いでいきます。各自が作者・監督となり、撮影したフィルムデータは当団体の編集部へ送付されます。その後撮影に使用したカメラは、次の作者へお渡しいたします。

詳細情報

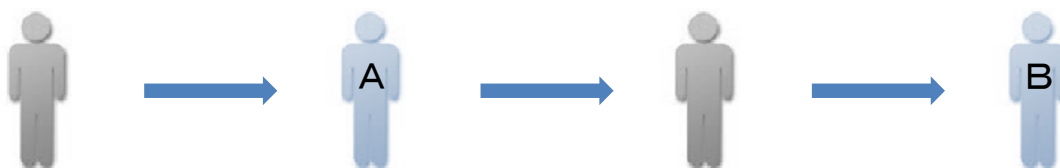
詳細は本誌裏面をご覧ください。または公式サイト www.ribbonforjapan.org にアクセスしてください。共にアウェアネス活動を世間に広めていきましょう。

“we are all one.”



参加概要 • ビデオカメラリレー • あなたのフィルムストーリー

ビデオカメラリレーの仕組み



RFJ スタッフ

空のメモリーカードと
共に製作者Aに
ビデオカメラを渡す



製作者A

自身の体験談をビデオ
カメラで撮影し、
RFJスタッフにビデオ
カメラを返却する



RFJ スタッフ

製作者Aが撮影したフィルム
データをRFJ編集部へ渡し、
その後製作者Bへ
ビデオカメラを渡す



製作者B

自身の体験談をビデオ
カメラで撮影し、
RFJスタッフにビデオ
カメラを返却する



フィルム制作ガイド



Through My Lens™

-レンズの向こうから

津波災害被災者によるフィルムストーリー

1. フィルムは被災者の実体験を自身で監督、撮影された作品であること
2. 貴重な被災体験を世界中の人々に知らせることを目的とする
3. 監督・撮影をするにあたり、制作前に同意書への署名が必要
4. 各フィルムは製作者本人の名前と同意の意思表示より開始される
5. 各フィルムの最後に、監督自身で著作権解放の意思を表明する

本プロジェクト詳細: www.ribbonforjapan.org

Through My Lens

レンズの向こうから

被災者が伝えるフィルムストーリー

あなたのストーリーを伝えるプロジェクト

2011年に発生した津波による災害の被災者自身が伝えるフィルムストーリー。独自の体験(談)をビデオカメラで撮影し、フィルムを制作していただきます。復興に向け生きる日々の中、身近に起こったこと、大きな喜びや些細な幸せ、想像を超えた逆境を体験しているからこそ伝えられることをフィルムに収めてください。

作品の作者・監督はあなた自身です。

「Through My Lens™ -レンズの向こうから」プロジェクトでは、あなた自身がストーリーの作者・監督となり作品を手がけ、世界へ向けて発信します。未曾有の災害を体験した貴方だから伝えられること、また人々に伝えたいことを、フィルムにしてみませんか？本プロジェクトへの参加者を募集しています。

アウェアネス・非営利プロジェクト

「Through My Lens™ -レンズの向こうから」プロジェクトは、Ribbon for Japan™ (以下RFJ)主催の非営利目的のプロジェクトです。RFJは日本の災害復興支援を目的とし、米国ロサンゼルスで設立された非営利団体です。最も重要なのは、支援の必要性を世間に認知させること＝**アウェアネス**。被災者自身で制作するフィルムはアウェアネスを浸透させるための強力なメッセージとなり、作品は記録として保存され、貴重な体験談は後世に引き継がれていくでしょう。

国際的なドリームチームを形成

RFJは、アメリカのエンターテインメント事業で培った経験と創造力を基盤とし、日本企業、メディア業界の協力と共に、世界的リーダーとしてアウェアネス活動を牽引することが最大の目的です。そしてその創造力を反映するのは、あなた自身であり、参加者一人一人が、プロジェクトを遂行する重要な存在です。共に「ドリームチーム」としてアウェアネス活動を継続することで、尊厳・豊かな人間性・回復力を人生にプラスすることができればと願っています。

プロジェクト参加者募集中

「Through My Lens™ -レンズの向こうから」プロジェクトの参加者を募集しています。本プロジェクトの専用ビデオカメラを被災地にテリレー形式で一人からまた一人へと繋いでいきます。被災者自身がフィルムの作者・監督となり、撮影したフィルムデータは、当団体のスタッフの手により、編集部へ送付されます。その後撮影に使用したカメラは次のフィルム制作者にお渡しいたします。

詳細情報

詳細情報に関しましては、www.ribbonforjapan.org 公式サイトをご覧ください。“we are all one.”をテーマとし、共にアウェアネス活動を世間に広めていきましょう。

Through My Lens - レンズの向こうから

リボンフォー ジャパン「被災地の声を届ける」フィルム制作ガイド

撮影主旨：

被災者の方々が自らの手で、震災当時と現在の被災生活の状況や感情などを自己の声明記録として残すこと。被災者の方々が震災後、どのようにして、日々勇気を出し、前向きにふるさとの復興のために頑張っているか、また、現在どのような支援が必要なのかを世の中に伝える。

構成内容：

撮影する時、5W（いつ、どこで、何が、誰と、なぜ）1H（経緯）を必ず冒頭に紹介する。撮影のときも、5W1Hを考えながら行う。

一例：今日は何月何日何曜日、今は何のためにどこにいる。これからは何を撮影する。

1、日常生活カット、人物紹介カット

（買い物、遊び、食事のしたく、食卓、学校のイベント、授業景色、なるべく10秒以上のカットを撮影すること。音声同録でOK。）

音声の区切りのいいところでPANをすること。特に語り際には、顔のアップ、表情を拾う（悲しい、悔しい、楽しい、嬉しい、絶望など）。

内容によっては出来るだけ、話者のカットと音声がきれいに入るように撮影する。

（家、会社、学校などの跡地での紹介カットかインタビュー内であればベスト）

2、地震、津波、避難生活実体験談（下記「参考用質問リスト」を参照）

3、生活上の問題点、困難、不安

（前向きで明るく、希望のあるものや楽しい暮らしぶりなどが必要）

参考用質問リスト

Part1、震災当時（個人体験談重視）

1、地震の時に何をしていたか？一人だったか？

2、地震情報確認はどうやってできたか？携帯？テレビ？ラジオ？友人からのメール？

3、地震のとき、どこにいたか？家？職場？道端？学校？

4、どんなこと、誰のことに気になっていたか？

5、津波が来るまでの避難準備は？食べ物？衣類？お金？懐中電灯など

6、避難準備の時の気持ちは？

7、どうやって、どこで避難した？

（何を持って、どのくらいかかって、誰とどこからどこまで行ったか？着いてから、その時のみんなの様子は？不安？号泣？啞然？疲労など）

8、津波がきた時の様子？波はどうきたか？勢いや高さ、強さ？（それを見ている避難者の様子は？不安？号泣？啞然？無力？）

9、人的被害は？（亡くなられた方のご家族や友人の話。その時の心境）

10、物質的被害は？（家？車？貯金？）

Through My Lens - レンズの向こうから

リボンフォー ジャパン「被災地の声を届ける」フィルム制作ガイド

Part2、震災直後

- 10、支援物資などはいつ、どこから、誰がなにをどのくらい運んできてくれたか？
- 11、支援金の補助はどうなっているか？
- 12、仮設住宅にはいつから入居できたか？
- 13、地震直後、何が一番不足していたか？
- 14、家族、友人の安否確認をどうやってしたか？
- 15、安否確認ができないときの気持ち？
- 16、地震後、いつ、どうやって、誰に助けられたか（屋上避難者とか）？
- 17、避難場生活はどうだったか？（寒い、毛布がない、電気がない、水がない、食べ物がないとか）
- 18、避難生活の困難はどうやって克服したか？

Part3、避難生活

- 19、日常生活上の物質配給はどうなっているか？
（身分証明書の再発行？臨時住所の登録？必要物資の確保？配給配送してくれるか？）
- 20、毎日のスケジュールはどんな感じか？震災前の暮らしと何が違うか？
（朝、昼、晩、平日、週末、祭日、暮らしの雰囲気）
- 21、子どもたちの学習生活はどうだったか？
（学校、先生、教材、文房具など）
- 22、年配の方が不安なこと。
（病気やけがでも病院に行けない、先生がいない。薬がない。適切な診断が受けられない。）
- 23、政府や民間組織の支援などへの不満。
（支援が遅い、方針が固まるのが遅い。行動が遅い。現地の声が届かない）
- 24、中年、若者の暮らしぶり。
（職探し？自給自足的な復興？出稼ぎ？養殖業再開？わかめ？カキ？いつ出荷？相場はどうなる？相場推定、値落ちとかの不安があるか？）
- 25、収入源はどうなっている。
（政府の支援金、民間の支援金、友人親戚の支援金、支援金システム、自分の貯金）
- 26、病気の時はどうしているか？
- 27、瓦礫撤去などの復興作業はどのようにやってきたか？（ゴミの処理とか、作業風景紹介、なにを使って、なにをどのように片付けたか。）
- 28、一人暮らし、体の不自由な方の困難さ。（世話をしてくれる人がいない）

Part4、心境

- 29、なくなった方々への思い。
- 30、助けてくれた人々への感謝の言葉。
- 31、将来への展望。

キーワード設定：

絆、前向き（元気）、希望、頑張ろう、勇気、笑顔、諦めない、乗り越える（克服する）、一歩ずつ、チャンス、復興、助け合い、生きるなど。